

1.2	本	稼	動	開	始	の	可	否	判	断	を	仰	ぐ	た	め	に	用	意	し	た	材	料			
	私	は	、	本	稼	動	開	始	日	を	判	断	す	る	材	料	を	以	下	の	よ	う	に	計	
画	し	、	A	社	責	任	者	と	合	意	し	た	。												
	・	2	月	末	ま	で	に	総	合	テ	ス	ト	を	完	了	す	る	。							
	・	3	月	か	ら	以	下	の	工	程	を	A	社	中	心	(一	部	弊	社	支	援)	で	
実	施	し	、	4	月	か	ら	の	稼	動	に	向	け	た	準	備	と	し	た	。					
	①	シ	ス	テ	ム	受	入	テ	ス	ト	(1	週	間)										
	②	既	存	デ	ー	タ	の	移	行	(1	週	間	、	弊	社	支	援)						
	③	運	用	部	門	の	へ	ル	プ	デ	ス	ク	準	備	(1	週	間)						
	④	利	用	部	門	へ	の	説	明	会	お	よ	び	ト	レ	ー	ニ	ン	グ	(1	週	間)	
本	稼	動	開	始	の	可	否	判	断	の	重	要	基	準	と	し	て	は	、	総	合	テ	ス	ト	
を	ク	リ	ア	す	る	こ	と	で	あ	る	。	次	に	受	入	テ	ス	ト	を	ク	リ	ア	す	る	
こ	と	が	本	稼	動	の	判	断	の	根	幹	で	あ	る	。	こ	れ	を	踏	ま	え	つ	つ	、	
上	記	②	か	ら	④	ま	で	の	工	程	で	あ	る	デ	ー	タ	移	行	の	完	了	状	況	や	
運	用	・	利	用	部	門	の	完	了	状	況	を	加	味	し	た	も	の	を	本	稼	動	開	始	
の	可	否	判	断	の	材	料	と	し	て	用	意	し	た	。										

	私	は	、	A	社	側	に	本	稼	動	開	始	の	延	期	の	打	診	を	し	て	み	た	。	
	し	か	し	、	A	社	は	、	子	会	社	や	得	意	先	に	対	し	て	新	ERP	シ	ス	テ	ム
	の	利	用	を	ア	ナ	ウ	ン	ス	し	て	い	た	た	め	、	本	稼	動	予	定	日	を	延	期
	す	る	こ	と	は	難	し	い	と	の	回	答	を	し	て	き	た	。							
	2	・	2	課	題	を	残	し	て	本	稼	動	を	開	始	し	た	場	合	の	調	査	と	対	応
	策																								
	稼	動	予	定	日	の	延	期	が	難	し	い	以	上	、	私	は	一	部	機	能	の	制	限	
	し	た	制	限	版	と	し	て	導	入	し	、	そ	の	後	修	正	し	て	ゆ	く	方	法	を	考
	え	た	。	そ	の	た	め	、	次	に	挙	げ	る	項	目	を	調	査	し	、	A	社	側	と	の
	交	渉	の	材	料	を	揃	え	、	交	渉	す	る	こ	と	に	し	た	。						
	(1)	課	題	の	修	正	に	か	か	る	期	間	の	見	積	も	り								
	私	は	、	課	題	の	修	正	に	か	か	る	期	間	を	見	積	も	る	必	要	が	あ	る	
	と	考	え	た	。	な	ぜ	な	ら	A	社	側	と	の	交	渉	時	に	制	限	版	の	期	間	を
	示	す	こ	と	が	で	き	な	い	と	A	社	側	が	見	通	し	を	判	断	で	き	な	い	か
	ら	で	あ	る	。	有	識	者	を	交	え	た	検	討	会	議	を	開	い	た	結	果	、	デ	ー
	タ	ベ	ー	ス	の	再	設	計	・	開	発	・	リ	グ	レ	ッ	シ	ョ	ン	の	工	程	で	3	ヶ

で	の	ピ	ー	ク	日	の	午	前	の	時	間	帯	に	以	下	に	挙	げ	る	対	策	を	立	案
し	、	A	社	側	と	交	渉	を	行	い	、	合	意	す	る	こ	と	が	で	き	た	。		
	①	本	件	の	問	い	合	わ	せ	専	用	の	へ	ル	プ	デ	ス	ク	を	A	社	運	用	部
門	に	設	置	す	る	。																		
	②	在	庫	管	理	機	能	担	当	者	は	、	応	答	時	間	が	遅	い	と	判	断	し	た
時	に	上	記	へ	ル	プ	デ	ス	ク	に	連	絡	す	る	。									
	③	へ	ル	プ	デ	ス	ク	は	販	売	管	理	機	能	の	一	部	リ	ソ	ー	ス	を	在	庫
管	理	機	能	に	振	り	分	け	る	処	理	を	行	う	。									
	④	A	社	へ	ル	プ	デ	ス	ク	の	バ	ッ	ク	ア	ッ	プ	の	た	め	に	、	本	件	修
正	ま	で	の	期	間	、	弊	社	内	で	特	別	チ	ー	ム	を	編	成	し	、	混	乱	が	発
生	し	な	い	体	制	を	整	え	た	。														
	リ	ソ	ー	ス	振	り	換	え	を	半	手	動	に	し	た	の	は	、	ピ	ー	ク	日	が	不
定	期	の	た	め	、	常	時	優	先	度	を	在	庫	管	理	機	能	の	み	に	設	定	す	る
の	は	難	し	か	っ	た	た	め	で	あ	る	。	A	社	側	責	任	者	や	販	売	管	理	機
能	の	担	当	者	に	は	、	感	情	的	に	な	ら	ぬ	よ	う	配	慮	し	て	説	得	す	る
こ	と	が	で	き	た	。	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	開	始	時	か	ら	イ	ン	フ	ォ	フ	ォ	ー

論文添削結果（クイック）

2013.03.05 みんなのSE創研
添削者：佐藤 創

【添削情報】

論文提出者：●●●●

問題：平成19年度 問2

【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

なおクイック添削は短時間で添削を行うことから、添削結果での指摘の漏れが発生する可能性がございます。通常の添削結果に比べて精度にばらつきが発生しやすい点につきましてはご了承をお願い致します。

[目次]

1. 論文見出し構成の例
2. 論述すべき内容
3. 添削結果
4. 講評
5. 今後の学習に関するコメント

1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

1. 私が携わったプロジェクトの概要
 1. 1 プロジェクト概要
 1. 2 本稼動開始の可否判断を仰ぐために用意した材料
2. 情報システムの本稼動開始について
 2. 1 本稼動までに解決できないと認識した課題
 2. 2 課題を残して本稼動を開始した場合の調査と対応策
 - (1) 影響範囲の調査
 - (2) 検討した対応策
3. 対応策の評価と今後の改善点
 3. 1 対応策の評価
 3. 2 今後の改善点

2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、1. 論文見出し構成例に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	プロジェクトの特徴、あなたの立場、求められる要件などを明記。 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト概要、プロジェクト体制 ・工期、工数、契約内容、担当工程など ・あなたの立場・役割 ・プロジェクトの制約事項・条件など ⇒特に、今回の論文では本稼動を延期できない理由を記述する必要があるため、ここで伏線を張っておくことが望ましい。	
1. 2	①委託元の本稼動開始の可否判断を仰ぐために適切な材料を記述すること。 ⇒成果物の完成見通しだけでなく、システム利用部門や運用部門の準備状況なども勘案して材料を用意していること。具体的には、①システムの品質確保の状況、②利用者への教育実施の状況、③データ移行の状況 などがある。 ⇒プロジェクト特性を加味して、本稼動開始の可否判断を仰ぐために適した材料であることが判ること。	
2. 1	①本稼動までに解決できないと認識した課題を記述すること。 ⇒システムが動作できないようなクリティカルな課題ではないこと。 ⇒課題の影響が小さすぎないこと（課題に対する適切な対応策を問う問題であるため、影響範囲が小さすぎると論文として評価しにくいと考えられる）。 ②プロジェクトマネージャ自身が、本稼動までに解決できない課題であると認識した記述であること。 ⇒さまざまな状況を分析して、自ら適切な判断をしていること（くれぐれも客先からの指摘で本稼動までに解決できないと判明した、などという記述にはしない）。	プロジェクトマネージャが課題を抱えたまま本稼動を開始することを決定している論述が好ましい。 客先から本稼動開始を要請され

	<p>③業務都合で本稼動を延期することが難しいことを記述すること。 ⇒本稼動に踏み切らざるを得ない背景を記述すること。</p>	<p>たからやります、という受身のスタンスではなく、積極的に影響範囲を見切って、適切な対応策を実施する計画を立てて客先を納得・説得させて、本稼動に踏み切った、という流れが良い。</p>
2. 2 (1)	<p>①課題を残して本稼動を開始した場合の影響範囲を記述すること。 ⇒プロジェクトマネージャが主導で調査を進めた点を記述すること。プロジェクトマネージャの視点での工夫を記述すること。プロジェクトマネージャとして適切な問題分析力があることが伺える論述をすること。 ⇒調査した影響範囲には、具体的には、①課題解決までの日数、②影響を受ける部門・利用者・業務などがある。</p>	
2. 2 (2)	<p>①影響範囲や課題の内容に適した対応策を記述すること。 ⇒具体的には、①一部の要件が実現できていない機能の代替策と運用手順を提供、②利用者への教育が不十分な部門を支援するためのヘルプデスクを用意、③システムの運用部門が機能するまでの暫定的なシステム運用支援チームの設置、④データの移行が完了するまでの当面の対応ルールを利用部門や業務単位に設定などがある。 ②プロジェクトマネージャとして適切なプロジェクト運営能力があることが伺える論述をすること。 ⇒ステークホルダの支援や協力が得られていること、問題対応能力があることがわかる論述をすること。</p>	
3. 1	<p>・対応策の簡単な顛末と、評価すべき点について記述すること。</p>	
3. 2	<p>・課題や対応策に関連する改善点を記述すること。</p>	

3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A～Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
B	合格水準にあと一步である	不合格

※A～Dランクの評価内容は以下の通りです。

- A：合格水準にある
- B：合格水準にあと一步である
- C：内容が不十分である
- D：出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA～Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な盛り込み	設問や問題文で求められる題意が適切に盛り込まれていること	A	合格水準にある
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること <ul style="list-style-type: none"> ・行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること ・行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと ・論述が、具体的・定量的で、かつ論理的であること 	B	合格水準に後一步
プロマネの創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方（創意工夫）を論述していること ・プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること ・専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること 	A	合格水準にある
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章であること <ul style="list-style-type: none"> ・論文としてふさわしい文章表現であること ・文章の内容が理解しやすいこと ・助詞などの用法に誤りがないこと ・誤字脱字がないこと 	B	合格水準にあと一步

4. 講評

当方の評価結果はBランクでしたが、あとほんの少しの修正でAランク水準に到達すると考えています。そのため、本番試験では本論文の水準でもAランクになる可能性もあると考えています。

添削者が考える講評について示します。なお頂いた論文に赤字でコメントを入れておりますので（コメントは本添削結果の末尾に添付）、講評と合わせてご確認頂けますと幸いです。

設問アは、1. 1節、1. 2節ともに特に問題になる箇所はなかったと考えます。1. 2節では本番稼働開始の判断を仰ぐための材料が妥当だと判断できる内容であり、良かったと思います。文章表現に関しては幾つかのコメントをさせて頂いておりますので、ご確認をお願いいたします。

設問イは、本番稼働開始までに解決できない課題について適切に述べていると思います。なぜ本番稼働開始までに解決できないと考えたかの根拠については、もう少しだけ丁寧に検討過程を論述されますと、より良い論文になると思います。また、機能制限付きで稼働開始をした際の利用部門への影響の確認、対応策の検討、利用部門との交渉の論述も大変具体的であり説得力があったので良かったと思います。特に交渉について、プロマネ自ら積極的に行っている姿勢が読み取れましたので、プロマネの創意工夫の観点からも問題ない内容だったと思います。

いくつか文章表現などに関する指摘がありますので、ご確認下さい。

設問ウでは、評価の対象についてやや論文で述べてきた対策の顛末が述べられていない印象を受けましたので、利用部門へのヘルプデスク対応などの顛末を簡潔に述べながら、評価をして頂きたかったと思います。今後の改善点については、これまでの論文で述べられていなかったスケールアップの観点について急に論述されておりました。この論述内容が、これまでの論文とどのような関係にあるのかが読み取りにくいと感じましたので、この点の修正または追記などの対応が必要になると思います。

5. 今後の学習に関するコメント

全体的にやや文章表現として不適切な箇所がありましたが、いずれも致命的なものではないと考えます。設問アとイのストーリー構成については問題ないと考えますので、総合的には評価が高い論文であったと考えます。

設問ウは、やや論述の観点がこれまでの論文内容とマッチしていない印象を受けましたので、その点についてコメント内容をご参考にして頂きたいと思います。

題意の把握も十分にできていると考えますので、今後は文章表現にも気をつけながら、他の問題においても同様のパフォーマンスを発揮できるよう、学習を継続されるとよろしいかと思います。

以上、添削結果のご確認の程よろしくお願い申し上げます。

ご不明点などございましたらお気軽にメールにてご連絡を頂けますと幸いです。

以上

氏名：

問：平成1

2/5

「～してみた」という表現は、とりあえずやっておいた、というややネガティブなニュアンスを含みますので、「私は、A社側に本稼働開始の延期が可能かどうかを打診した」とすっきり述べてしまっていると思います。

私は、A社側の打診をしてみました。

しかし、A社は、子会社や得意先に対して新ERPシステムの利用をアナウンスしていたため、本稼働開始の延期は難しいとの回答を得た。したがって、2.2課題を残して本稼働を開始した場合の調査と対応策を「開始日」としたほうが良いです。

稼働予定日の延期が難しい以上、私は一部機能の制限版として導入し、その後修正してゆく方法を考えた。そのため、次に挙げる項目を調査し、A社側との交渉の材料を揃え、交渉することにした。

(1) 課題の修正にかかる期間の見積もり

私は、課題の修正にかかる期間を見積もる必要があると考えた。なぜならA社側との交渉時に制限版の期間を示すことができないとA社側が見通しを判断できないからである。有識者を交えた検討会議を開いた結果、データベースの再設計・開発・リグレッションの工程で3ヶ

「回答を得た」としたほうが良いです。

「開始日」としたほうが良いです。

「を」の誤りです。

